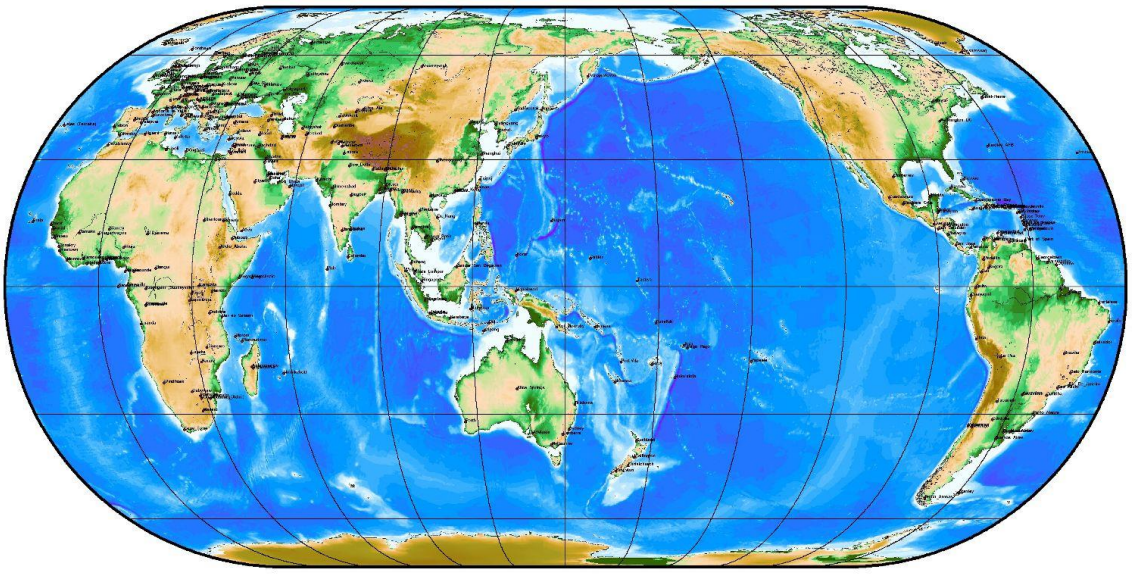
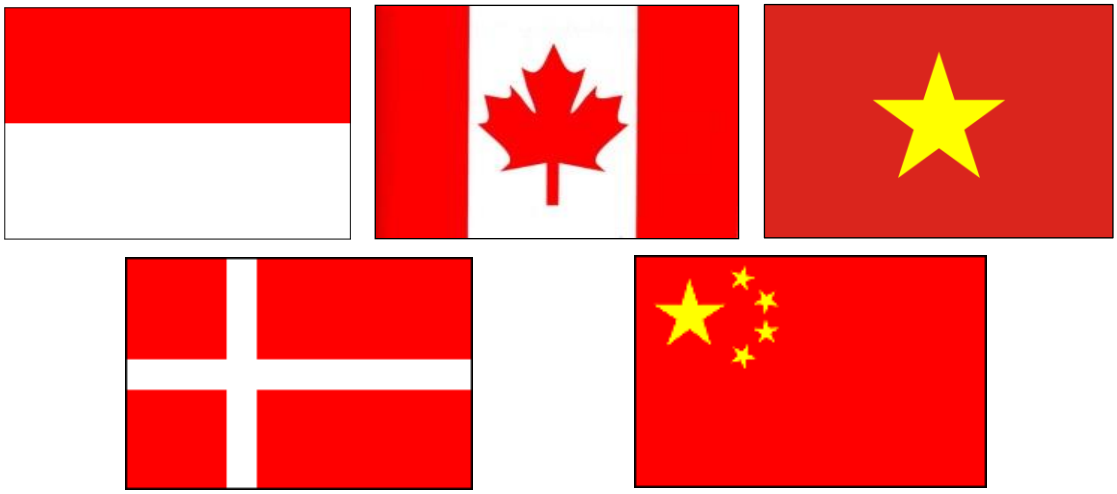
平成３０年度和歌山県立日高高等学校

国際交流のあゆみ





日高高校　教育開発部

目次

海外研修

ページ

1　インドネシア研修　【10 月】　・・・・・　1

2　カナダ研修　【11 月】　・・・・・　11

3　ベトナム研修　【1 月】　・・・・・　22

姉妹校交流

1　中国　西安中学訪問団来航　【10 月】　・・・・・　32

2　デンマーク　フレデリクスハウン高校訪問　【10 月】　・・・・・　40

その他

1　アジア・オセアニア高校生フォーラム 2018　【7 月】　・・・・・　49

海外研修

インドネシア

1. 目的

(1) インドネシアにおける防災対策、自然災害への危機管理と取組について連携機関で学ぶ。

プログラム①国際協力を学ぶ

プログラム②アジア経済の仕組を学ぶ

プログラム③世界遺産の被災と復興を学ぶ

(2) 「総合的な学習の時間・防災分野」の取組を紹介するとともに、現地高校生と協働学修をする。

プログラム④英語を用いた協働学修に取り組む

(3) 研修期間を通してコミュニケーション力を磨き、自国文化および異文化への理解を深める。

プログラム⑤異文化の中で自らを客観視し、成長させる

プログラム⑥事前事後研修を含むすべての研修の中で協働することの意義を学ぶ

2. 日時

2018 年（平成 30 年）10 月 14 日（日）－10 月 20 日（土）　（現地 5 泊、機中 1 泊）

3. 研修先

インドネシア共和国（ジャカルタ市、ジョグジャカルタ市）

4. 事前・事後研修

(1) 事前研修①　英語研修：夏期休暇中全７回

(2) 事前研修②　防災学修、プレゼン準備：夏期休暇～渡航まで

(3) 事後研修　研修総括、プレゼン準備、報告書作成：帰国後～１月

5. 研修団

参加生徒：１年生６名　２年生１名、計７名

引率教員：２名

6. 主な訪問先

(1) JICA インドネシア事務所　JICA Jakarta Office

(2) ERIA ジャカルタ本部　ERIA Jakarta Office

(3) マダニア高校　Madania Secondary School

(4) ボロブドゥール史跡公園、プランバナン寺院史跡公園 BOROBUDUR、PRAMBANAN TEMPLE

(5) 国立博物館、独立記念塔、モスク、ジャカルタ歴史博物館　National Museum、MONAS Monument、Istiqlal Mosque、Jakarta Historical Museum

7. 研修日程

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関	内容(宿泊地)
1	10月14日(日)	関西空港　集合 関西空港　　発 ジャカルタ　着 ホテル着 夕食・ミーティング・点呼	09:30 12:40 17:20 19:40 20:00	GA889 専用車	（ジャカルタ市内泊）
2	10月15日(月)	ロビー集合 JICA事務所着 ホテル着 夕食・ミーティング・点呼	08:00 08:35 16:15 17:50 20:30	専用車	・JICAインドネシア事務所(9:30-11:50) ・ERIAジャカルタ本部(13:00-15:30) （ジャカルタ市内泊）
3	10月16日(火)	集合出発 マダニア高校着 マダニア高校発 ホテル到着 夕食 点呼・ミーティング	07:00 08:40 15:50 17:20 20:30	専用車	・マダニア高校(8:50~15:40) （ジャカルタ市内泊）
4	10月17日(水)	集合出発 ホテル到着 夕食 点呼・ミーティング	10:00 17:50 20:30	専用車	・ジャカルタ市内視察研修モスク/カテドラル/国立博物館 （ジャカルタ市内泊）
5	10月18日(木)	集合出発 ジャカルタ発	06:50 08:00	専用車 GA204	・世界遺産の被災と復興研修

		ｼﾞｮｸﾞｼﾞｬｶﾙﾀ着 ｼﾞｮｸﾞｼﾞｬｶﾙﾀ発 ジャカルタ着 ホテル到着・点呼・ミーティング	09:20 19:20 20:25 21:40	専用車 GA215	The Borobudur Temple (ボロブドゥール史跡公園) Prambanan Temple Compounds (プランバナン寺院史跡公園) （ジャカルタ市内泊）
6	10月19日(金)	集合出発 空港到着 ｽｶﾙﾉﾊｯﾀ空港出発	11:00 19:20 23:20	専用車 GA888	・ジャカルタ市内視察研修 独立記念塔/歴史博物館/旧オランダ街 関西空港へ (所要時間：6 時間 55 分) （機内泊）
7	10月20日(土)	関西空港到着 解散	08:30 10:00	～同上～	～同上～

【学び】

このインドネシア研修の目的は、お互いの国の防災、そして文化や歴史について学び、発信するということでした。私たちの住む地域では近い将来南海トラフ大地震が来ると予想されています。様々な被害が考えられる中、私たちに必要なのはそれらの震災に対する知識であると私は考えました。その知識による個人一人ひとりの防災に対する考えが、地域全体の防災につながっているのだと思います。よって私は、まず自分の防災に対する知識を深め、それを発信することによって地域の防災に役立てることが出来るのではないかと思い、この研修に参加しました。私はこれで二度目の海外研修ですが、初めて行った西安交換留学では、日本と大きく違う文化や歴史にとても驚いたと同時に、現地に行かなければ分からないことも多くあるのだなと感じさせられました。今回のインドネシア研修でも、イメージや先入観とは違った、行かなければ分からないことを感じることが出来ました。

インドネシアはいま急成長中の国で、高層ビルが立ち並ぶ大きな主要道路、ひしめき合う道路上のバイクや車の多さ、日本では見たことのない風景に圧倒されました。美しく整備された道路や建物がある一方で、少し脇道に入ると風雨をしのぐためだけの建物が見え、それらが 1 つの景色の中に存在している姿が、大きな経済格差を象徴しているように思えました。しかし、市場や道路上で物を売っている人々やバイクに乗って仕事に行く人々は、明る

い表情だったように思います。JICA の方がおっしゃっていた、「インドネシアの人々は今日より明日の方が良くなると信じている」ということに納得しました。独立記念塔の上に登るエレベーターに先に乗らせていただいたり、お店などで親切に対応して下さったりと、人々の優しさ、心意気も感じました。

マダニア高校との交流において、私たち日高高校が行っている防災の取組を発表する機会があったのですが、私はその発表で自分の計画性と行動力のなさ、準備不足を思い知らされました。このような発表をするためには、やはりこの発表をする目的や意義を私たちが一番理解していないと出来ないことです。ただやれと言われたからするという能動的な立場のままでは、自分たちが伝えるべきことが十分に伝わらないということを学びました。これらのことは、インドネシア研修に参加したからこそ学べたことであると思います。この研修は、大げさかもしれませんが国を代表して訪問しているとの見方も取れます。それほどの責任がある上での体験はとても貴重なものだと感じました。

自分の先入観と知識のみで物事を見るのと、実際に自分の目で見て肌で感じた上で見るのとでは、見方も感じ方も、大きく違うものになると思います。海外研修に参加してみないと感じられないこと、学ぶことのできないことはたくさんあります。価値観を広げるためにもぜひ研修に参加してみて下さい。

（１年６組　阪本　淑恵）

【防災】

インドネシア研修に参加して、いろいろなことを学びました。研修に参加していなければ、防災についてここまで詳しく調べたり考えたりしていなかったと思います。

日本は、地震などの自然災害が多い国のひとつとして知られています。また、いつ私たちが住む和歌山も地震に襲われるか分かりません。30 年以内に 70～80%の確率で南海トラフ巨大地震が起こるとも言われています。ですが、地震はあまり自分に関係がないように思っていました。しかし 2016 年の熊本地震をニュースで見た時、怖いと感じたのと同時に、他人事ではないと感じました。また、防災について考えていきたいとも思いました。しかし、一言に防災について考えるといっても、何からすれば良いのかわからずにいました。その時にこのインドネシア研修について聞きました。この研修に参加すると、仲間と共に日本とイ

ンドネシア両国の防災について考え学ぶことが出来ると聞き、参加したいという気持ちが芽生えました。ですが、私は今まで海外に行ったことがなかったので参加したいという気持ちと少し怖い気持ちがありました。ですが、海外に行ったことのある友達から、「日本では得られない楽しさがあるから参加してみたら」と言われたので応募することにしました。

私は、本当にこの研修に参加してよかったと思っています。「防災」は島国で災害の多いという共通点がある、日本とインドネシアが共に考えていくべきものです。インドネシアにあるマダニア高校の人と防災についての発表をしました。その他にもたくさんのことを話しました。

私はこの研修に参加して、インドネシアの防災について知れただけでなく、人としても成長出来たと思います。自分は本当に未熟で、その分、まだまだ成長出来るとも言えます。私は、研修中も何度か失敗をしてしまったことがありました。その時には優しい先輩や友達が助けてくれたり先生の温かい言葉に助けて頂いたりしました。そのほかにも、思っていることをうまく言葉にできなかったりと悔しい思いをすることもありました。そんな私の拙い英語を一生懸命聞いてくれた人には感謝しかありません。これからもっと英語の勉強をしていかなければならないと感じました。そして、将来的には助ける側になりたいなと思いました。本当に一週間はあっという間に過ぎました。最終日には、帰るのが嫌だなと友達と話したくらいです。それだけ充実した時間を過ごせたのだと思います。

ぜひ、来年度インドネシア研修に参加してみて下さい。

（１年６組　志賀　佐和子）

【JICA・ERIA 研修】

２日目の午前中、私たちは JICA を訪問しました。JICA では、主にインフラや災害対策についての講演を聞きました。インドネシアは、ガバナンス・防災・格差 の３つの点においてバランスの取れた社会を目指していると学びました。また、防災に関する話で「草の根事業」という活動について知りました。草の根事業とは、市民が主体となって、これまで培ってきた経験や技術から発展させていこうという活動です。例として、インドネシアのニアス島で行なっている草の根事業を聞きました。

インドネシアのニアス島では、伝統舞踊「 Maena 」を活用した防災に関する替え歌が歌

われています。ニアス島の小学校では先生・生徒・保護者が一体となって替え歌を作っています。また４月になると替え歌コンテストも開催されているようです。これらの目的はニアス島の住民の防災意識を向上させるためです。ニアス島だけでなく、インドネシア全体として防災意識が低いと聞きました。それは、経済面と国民性によるものからだと思いました。

インドネシアは徐々に経済が発展している国です。しかし、その反面、都市部と地方部では経済格差も徐々に広がってきています。私たちが研修に行ったジャカルタは大都市で多くの高層ビルが立ち並んでいましたが、郊外に近づくにつれ、ただ雨風をしのげるくらいの建物をたくさん見ました。また、都市部では避難高台が作られ防災対策が進んでいるのに対し、地方部ではあまり進んでいないそうです。その原因として、「未来の為に費やすお金があるなら、今の生活に費やしたい」という地方部に住む人々の思いがありました。防災対策をしていく為にはお金が必要となってきます。そのため、今の生活のために毎日を頑張っている彼らに対して、とても難しい課題だと感じました。また、私はこのような現状を目の当たりにして防災格差は経済格差も原因しているのではないかと感じました。

午後からは、ERIA を訪問しました。ERIA では、ERIA の歴史や ASEAN との繋がりについての講演を聞きました。英語での講演は、私にとってとても難しかったですが、自分の知らないことを更に知ることができました。また、知らない英単語が多かったので、たくさんの英単語の意味を知ることができました。

二つの講演を聞いて、学んだことがとても多く、自分の視野や考え方を更に広げることができたと思います。またバスからインドネシアの街並みや現地の人々を見ていると、活気に満ち溢れていて元気をもらえるようなそんな気がしました。日本では、感じることのできない事や知らない事ばっかりでとでも新鮮な気分でした。今回の研修に参加し、学んだことをこれからの自分への糧にしていきたいです。２日目は、講演が立て続けにあったので、疲れていたのか、ぐっすりと眠ることができました

（２年５組 今枝 萌）

【国際交流】

10 月 14 日から 10 月 19 日までインドネシア研修に参加ました。この研修に参加した理由は、国際交流に興味があったからです。私は今までにも中国でのホームステイに参加したり、中国人やデンマーク人のホームステイ受け入れたりと、多くの国際交流を経験してきました。ホームステイ受け入れは本当に楽しかったですが、やっぱり実際に自分で日本を出て、外国人とコミュニケーションをと

る方がたくさん英語を練習できるし、それが私はとても楽しいと思います。

そういうわけで、私にとって最も印象的だった研修は、マダニア高校訪問、現地学生との協働学修でした。マダニア高校の生徒はとても明るく歓迎してくれました。積極的に話しかけてくれたおかげで、緊張気味だった私達もすぐに慣れました。英語で自己紹介したりお互いの国の文化について話し合ったりと、とても楽しい交流ができました。その中でも仲良くなった人とはインスタグラムや連絡先を交換して今も連絡を取り合ったりしてつながっています。友達の輪が日本だけでなく世界へ広がることも海外研修に参加することの長所だと思います。私はこれからももっと色々な国へ行って世界中の友達を作りたいと思います。

そして、今回の研修で一番の醍醐味はボロブドゥール遺跡だと思います。ボロブドゥール遺跡は世界最大の仏教寺院です。有名な世界遺産ということもあり、行く前から私はすごく楽しみにしていました。しかし、体調を崩して一番上まで登ることが出来ませんでした。それがとても残念です。しかし、間近で見ることが出来ただけでもほんとにいい体験になりました。

今回の研修テーマ「防災」については、インドネシアの人々の経済力や大きな経済格差に課題を感じました。お金がないから防災にかける時間も労力もない人たちがインドネシアには多いようです。だから同じ自然災害が多い国である日本が資金面だけでなく技術協力などでも援助していることを誇りに思いました。インドネシアには多くの日本料理店や日本メーカーの製品があり、人々も日本に対して良い印象を持っているようでした。やはり日本のそういう助け合いの精神があるからだと思います。

インドネシアに行って、私は外国人との現地でも国際交流するだけでなく、インドネシアの国が抱える問題やお互いの国がどのような関係を築き上げているかなども体で感じて、考えて、知ることが出来ました。これからもたくさんの研修に参加して、自分の視野を世界へ広げたいです。

（１年６組　源地　菜月）

【学校交流①】

学校交流では、マダニア高校さんを訪ねさせてもらいました。約 50 人いた生徒さんと対面したとき、目が合ったらニコッと微笑んでくれたり手を振ってくれたりして、それだけで、やさしくてフレンドリーな人たちだなというイメージを持ちました。生徒さんの一人が、日本語でとても上手に歓迎の言葉を言ってくれました。少し止まったりしたときでも、周りの

生徒さんが「Good luck!」のような掛け声をかけて応援して盛り上げていました。ひと通りの開会式が終わった後、部屋の後ろに手作りのお菓子をたくさん置いてくれていました。それらを食べながら、生徒さんたちと英語を使って交流をしたり、Instagram のユーザー名を交換したりしました。見たことのないお菓子ばかりで「What is this?」と、すべてといっていいほどほぼ全部のお菓子の紹介をしてもらいました。

校内探索で図書館や音楽室、キリスト教徒、イスラム教徒、仏教徒、ヒンドゥー教徒がそれぞれ別に集まっている部屋を覗かせてもらいました。私たちが通う日高高校にもある図書館や音楽室は、本や楽器の量や、教室の広さなど、とても規模が大きかったです。

私たちは power point を使って、日本の非常食と避難場所、ハザードマップについて話しました。ハザードマップはインドネシアにもあったので、頷きながら聞いてくれました。避難場所の話をしているときに、私たちが考えた簡易トイレの作り方を紹介し、一緒に作りました。少しごたついてしまいましたが、楽しそうに参加してくれていたのでよかったです。また、非常食について話しているときにはアルファ米を食べてもらいました。インドネシアに非常食はないのは事前に調べてあったのですが、予想以上に反応が大きくて自分自身も驚かされました。

今回 SGH 研修に参加させてもらって、日頃見ることや触れることができないことに挑戦することができて、とてもいい経験になりました。言葉が通じにくい時でもコミュニケーションはとることができるということと、他国の人と関わることのすばらしさをとても感じることができました。英語力も格段に上がったと思います。でもそれ以上に、自分に自信を持てるようになりました。この自信をもって、これからもたくさんのことに積極的に挑戦していこうと思います。

（１年４組　上田　遥菜）

【学校交流②】

チャイムが鳴ったあと、体育館でインドネシアの伝統的な遊びをしました。日本の学校では、体育館を使用するときは別のシューズに履き替えますが、インドネシアの学校は日本とは違って、日頃履いている靴で体育館を使用しました。その伝統的な遊びは２チームに分かれて片方のチームは定位置につき、決まった範囲ないで近寄って来た相手チームの人を捕まえる、といった少し鬼ごっこのようなものでした。私はあまりルールを理解出来

ていなかったので、マダニア高校の生徒さんに「This game is difficult！」と伝えました。マダニア高校の生徒さんにはこの英語が上手く伝わらなかったので、「Difficult!」とだけゆっくり言うと、ニコッとして頷いてくれました。たった一つの単語だけでも私が思っていることを理解してくれたのでとても嬉しくなりました。ゲーム中も少しずつコミュニケーションをとり、最初から最後まで楽しく遊ぶことができました。

お別れの会をしてからマダニア高校の格闘技の先生が命の危険を感じたときに使う格闘技の技を教えてくださいました。その場にいた生徒全員で練習をしました。少し難しかったけれど、みんなで助け合いながら技を習得することが出来ました。最後の集合写真をとってからインスタグラムのアカウントを交換したり、マダニア高校の生徒さんと写真を撮ったりして、そこでもまたコミュニケーションを取ることが出来ました。私の拙い英語を真剣に聞き取ってくださり、またしっかりと答えてくださいました。私もマダニア高校の生徒さん達の言っていることを聞き取ろうと思い、相手の目を見て話を聞きました。すると思っている事が伝わったので、海外の人と会話をすることは楽しい！と思うことが出来ました。

校舎から学校の玄関まで送ってくれて、別れ際に私たちがバスから手を振っていると、マダニア高校の生徒会長さんが泣いてくれていました。私たちと過ごした時間が楽しくて別れるのが悲しいと思って泣いてくれているのだと思ったら、とても嬉しい気持ちになりました。私もマダニア高校で過ごした一日はとても楽しくて時間がすぎるのがとても早く感じました。

この一日を通して感じられたことは、言葉は通じなくてもコミュニケーションを取ることができるということ、また他国の人と関わることの楽しさと素晴らしさです。この事を家族や学校の皆さんに伝えて、海外研修の重要さと素晴らしさを知ってもらいたいです。そしてインドネシアで学んだ防災への意識や取り組み方をずっと心においておき、これからに役立てたいです。この研修に参加できてよかったです。来年も海外研修に参加したいです。

（１年５組　小松　智加子）

【プランバナン寺院群】

今回のインドネシア研修で、私たちはインドネシアのジャワ島中部にあるプランバナン寺院群に行ってきた。まず、プランバナン寺院群とはヒンドゥー教と仏教の二つの宗教にまつわる複数の寺院で構成された遺跡だ。ユネスコの世界文化遺産の一つにも選ばれている。その遺跡に祀られているのはヒンドゥー教の三大神だ。そのうち、一体が破壊神であるシヴァ神だ。このシヴァ神は三大神の中で最も強いとされている。なぜなら、シヴァ神が怒って

物を壊さないようにするためだ。シヴァ神を祀ったシヴァ堂は高さ４２メートル。シヴァ像がある部屋の他に三つの部屋が有り、南室にシヴァの師アガスティア、西室にシヴァの息子で象の頭を持つガネーシャ、北室にシヴァの妻ドゥルガーの像が祀られている。シヴァ堂の正面の小さなお堂の中には、シヴァ神の乗り物である聖牛ナンディの像が納められている。二体目は創造神であるブラフマー神。ブラフマー神を祀っているブラフマー堂はシヴァ堂の南側にある。ブラフマー堂は一部屋で四つの顔を持つブラフマー像が安置されている。回路には、シヴァ堂から始まるラーマヤナのレリーフの続きが描かれている。「ラーマヤナ」とは、ヒンドゥー教の神話の一つで、ヴィシュヌ神がコーサラ国の王子ラーマとなって、魔王ラーヴァナを退治する物語のレリーフが施されている。３体目は守護神であるヴィシュヌ神。ヴィシュヌ神が祀っているヴィシュヌ堂はシヴァ堂の北側にある。ヴィシュヌ堂はブラフマー堂と同じく一部屋のみで、内部にはヴィシュヌ像が安置されている。ヴィシュヌ堂の回路にはヴィシュヌ第８の化身であるクリシュナの物語のレリーフが施されている。

この三つのお堂の近くには実際に、地震で落ちてそのままになっている石像があちこちに転がっていた。これは地震が起こった時の記憶をいつまでも忘れないようにするためだそうだ。インドネシアの人々は日本の人々と同じように何十年もの時が経つとすぐに忘れてしまう。だから、このようにそのままの形で石像を残しているのだ。

私がこの研修で学んだことは、過去のことは変えられなくても未来のことなら変えられるということだ。プランバナン寺院群のように、過去に起こった出来事を今に残しておくことで、未来に起こる出来事に対して心の準備ができる。私はこのような取り組みを日本でも取り入れてほしいと思う。

（１年５組　日下　瑞希）

カナダ研修

1. 目的

(1) 日系カナダ移民の歴史について学修を深める。

プログラム① バンクーバー市近郊のジョージア湾缶詰工場国定史跡の見学

プログラム② 日系カナダ人からの聞き取り調査および交流

(2) 異文化コミュニケーション、異文化理解に関する見識を深める。

プログラム③ 現地高校生との交流

プログラム④ インタビュー調査を主とするフィールドワークの実施

(3) 生徒自らの主体性を涵養する。

プログラム⑤生徒自らが計画実行する「自主研修」の設定

2. 日時

2018 年（平成 30 年）11 月 4 日（日）－11 月 9 日（金）　　（現地 4 泊、機中 1 泊）

3. 研修先

カナダ・ブリティッシュコロンビア州（バンクーバー市、リッチモンド市）

4. 事前・事後研修

(1) 事前研修① 英語研修：夏期休暇中 9 回

(2) 事前研修② 英文資料翻訳、プレゼン準備、インタビュー準備：9 月－10 月放課後

(3) 事後研修 研修総括、プレゼン準備、報告書作成：11 月－2 月

5. 研修団

参加生徒：2 年生 8 名 計 8 名

引率教員：2 名

6. 主な訪問先

(1) UBC キャンパス　The University of British Columbia Vancouver Campus

(2) 和歌山県人会　Steveston Buddhist Temple

(3) スティーブストン缶詰工場史跡　Gulf of Georgia Cannery National Historic Site

(4) グランビルアイランド　Granville Island

(5) リッチモンド セカンダリー スクール　Richmond Secondary School

7. 研修日程

日次	月日 (曜)	地名	現地時刻	交通機関	予定(宿泊地)
1	11 月 4 日 （日）	関西空港発 成田空港着 成田空港発 バンクーバー着	14:05 15:25 18:40 10:20	GK204 AC004 バス	① バンクーバー市内見学 ホテルへ （バンクーバー泊）
2	11 月 5 日 (月)	バンクーバー リッチモンド	午前 午後	バス	① UBC キャンパス訪問 ② 和歌山県人会訪問 (1) 交流 ③ ｽﾃｨｰﾌﾞｽﾄﾝ缶詰工場史跡見学 （バンクーバー泊）
3	11 月 6 日 (火)	バンクーバー	終日	公共交通 ・市バス ・メトロ	① 自主研修 (1) グランビルアイランド (2) インタビュー調査 ・「移民」について （バンクーバー泊）
4	11 月 7 日 (水)	リッチモンド	終日	公共交通 ・メトロ	① 学校交流 Richmond Secondary School (1) プレゼン(カナダ移民について) (2) 授業参加 (日本語、英語、数学) (3) 生徒交流 (ランチ交流、授業交流) （バンクーバー泊）
5	11 月 8 日 (木)	バンクーバー発	10:00 13:45	バス AC003	ホテル出発 （機内泊）
6	11 月 9 日 (金)	成田空港着 成田空港発 関西空港着	16:40 19:15 20:55	MM318	成田着、乗り換え 関西空港 着後解散

【事前学習～初日】

私たちは 11 月 3 日から 9 日までカナダ研修に行きました。この研修の目的は、カナダの移民について学ぶことと、英語を学ぶことです。そのため、カナダに行く前に、カナダについての知識を深めたり、英語でのコミュニケーション学習などの取り組みがありました。夏休みには ALT のジェームズ先生と、英語を使ったコミュニケーションの練習をしました。私は英語でのコミュニケーションが苦手でしたが、この取り組みのおかげで、コミュニケーションを積極的に取ろうとする意識が高まりました。夏休みが明けてからは、カナダについての知識を深めたり、現地で発表するプレゼンの準備に取り掛かりました。私たちは、日本の移民とカナダの移民との関係を現地の人に知ってもらうように、プレゼンを作成しました。私にとって初対面の人が多かったので、うまくやっていけるか不安でしたが、みんなで協力して仲良く取り組むことができました。

そして 11 月 3 日、私たちは期待と不安を胸にカナダに向けて出発しました。飛行機は約 10 時間という長いフライトでしたが、映画などを見て、この長い時間を有意義なものにできました。

カナダのバンクーバー空港に到着し、不安だった入国審査を無事に済ませて、バスで車窓観光をしました。道中ではガイドさんがカナダについて様々なことを教えてくれました。1 つには、カナダの移民についてでした。カナダは世界的に見て移民大国であり、主に中国人移民が多いことを知りました。ガイドさんからこのような話を聞きながら、私たちはスタンレーパークというところに向かいました。そこはトーテムポールで有名であり、記念撮影等をしました。スタンレーパークはとても広かったので、ほんの一部しか行けませんでしたが、時間があればもっとゆっくり観光をしたかったです。

その後、一度ホテルに行き、歩いてギャスタウンに行きました。そこでは、買い物をしたり、有名な蒸気時計を見ることができました。蒸気時計は 15 分ごとに蒸気で笛が鳴るという仕組みの時計でした。日本とは街並み等において違った雰囲気があり楽しむことができました。買い物の後、近くのフードコートで夕食をとりました、きちんと注文できるか不安でしたが、店員さんと何とかコミュニケーションをとることができたので無事に夕食をとることができました。初めての体験ばかりでしたが、初日は移動時間が多く大変であるという印象が強かったです。

（2 年 3 組　脇田　将希）

【2 日目】

私たちは二日目にまず UBC ブリティッシュコロンビア大学を訪問しました。大学内の雰囲気はとてもよく、多くの学生たちが行き来していました。大学内はとても広く多くの建造物が立ち並んでいました。その中で私たちは図書館を見学させていただきました。図書館には多くの書物が保管されていてコンピューターも充実しており、多くの学生が利用していました。また大学のサッカーチームの方々とゲームなどをして交流し有意義な時間をすごしました。

次に和歌山県人会を訪問しました。ここでは県人会の方に移民の歴史や県人会の活動などについてお聞きしました。私たちはあらかじめ移民の歴史について事前に学習してきたつもりでしたが、まだまだ私たちの知らない多くのことを聞くことができました。私の中で特に印象に残っているのは戦争中に収容された方の体験談です。実際に体験された人から話を聞いたので、書物などには書かれていないリアルな話まで事細かに聞くことができました。

また、現在県人会のメンバーは減りつつあり、だんだんこの移民の歴史を伝えていく人が無くなっているそうです。そのようなことにならないように私たちが率先して聞いてきたことをいかにして広め、伝えていくかがとても重要になってきます。私は聞いてきたことをそのまま伝えるだけでなく、移民の歴史をより理解してもらえるように努めていきたいと思っています。

右（県人会の方々）

最後に缶詰工場を訪問しました。カナダ沖では多くの魚介類が取れ、今でもサーモンなどの魚が多く取れることで有名です。昔日本人もスティーブストンに出稼ぎにやってきて漁師として働きました。工場ではどのようにして缶詰が作られるのか、またその時代背景なども詳しく知ることができました。

今回の研修は自分にとってとても良い経験になり、また英語に対する意識もよりいっそう高まりました。この研修で得たことを今後の学校生活に生かしていきたいと思います。

（2 年 5 組　下田　悠斗）

【3 日目】

3 日目の午前中、私達は 2 つのグループに分かれ、スタンレーパークとエリザベス公園で、現地の方に移民についてのアンケートを取りました。私たちの想像以上に移民の方が多く、さすが移民の国だと驚きました。最初は話しかけるのに戸惑ったけれど、徐々に慣れ、積極的に話すことが出来ました。気さくな方が多く、日本のことや私たちの研修にとても興味を持ってくれ、たくさん話をして楽しむことができました。日本のお菓子をあげるとすごく喜んでくれたのも印象的でした。移民として移住してきて 1 週間のブラジル人の方とは、お互い英語は上手く話せなかったけれど、知っている単語で言い換えあったり、ジェスチャーを使ったり、大変だったけれど有意義で楽しい時間を過ごせました。伝える意思の大切さと、頑張れば伝わるということを学べた気がします。

午後は、両方の班が合流し、グランビルアイランドへ行きました。周りを海に囲まれたアウトレットのような場所で、市場や店、飲食店、ホテルなどがありました。そこで昼食を食べました。皿の半分以上がポテトで、量の多さに驚きました。

グランビルアイランドは、お菓子やおもちゃ、雑貨、食べ物等、たくさんのお店があり、歩いているだけでもすごく楽しかったです。また、船の中からカワウソの群れが出てきたり、初めて見るものがたくさんありました。3 日目は特に初めて体験することが多く、とても有意義なものになりました。

（2 年 5 組　鈴木　穂乃花）

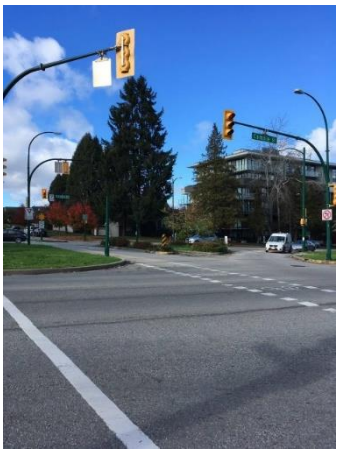
【4 日目】

この日は、朝から電車に乗って、Richmond Secondary School を訪問しました。学校に着くと、ちょうど生徒たちが登校してくる時間帯でした。学校に入って最初に、この学校はカナダ人の生徒より他の国の生徒の象は、カナダ人の生徒より他の国の生徒の方が多いという印象を受けました。初めに案内されたのは、日本語のクラスで、さすが移民大国、生徒の多くが中国人だと先生がおっしゃっていました。学校の中を案内してもらった後、現地の生徒さんとペアになって、それぞれ授業を受けました。この学校では授業中でも携帯を触ったり、食べ物を食べたりすることが許されていました。先生でさえもお茶を入れに行ったりしていました。日本の学校では絶対ありえないことなので、とても驚きました。私が最初に行ったのは、科学の授業で実験をしました。まず、先生がカラフルな白衣を着ていたのでとても驚きました。みんな優しくて、私の拙い英語を一生懸命理解しようとしてくれました。次は数学の授業を受けました。日本の学校と比べて、みんな積極的に発言していて、私たちも見習わなければいけないなと思いました。日本語のクラスに戻って、カナダ移民についてのプレゼンテーションを行いました。お昼も一緒に食べて、LINE や Instagram も交換しました。日本人だと錯覚してしまうくらいみんな日本語が上手でした。とても楽しくて１日があっという間に過ぎて行きました。また、２人の生徒さんたちが、遠いのにわざわざホテルまで見送ってくれて、改めてカナダに住んでいる方の優しさに感動しました。訪問先の学校は専門的な教科がたくさんあり、色々な分野が学べる学校でした。日本より自由性がありましたが、そんな中でお互いを尊重し合ったり、みんな責任を持って行動していました。

交流を通して思ったのは、私のコミュニケーション能力の低さです。そこには積極性が関係しているのではと思いました。英語は話さないと上達しないと聞いたことがあります。日高高校では、様々な国の人と交流できる機会がたくさんあると思うので、どれだけ積極的に話しかけられるかが、コミュニケーション能力の上達につながるのではと思いました。異文化はインターネットで調べれば簡単に学べるけど、私たちが実際に現地を訪れて、直接異文化に触れることは、なかなかできないことなので、今回の訪問は私にとって、とてもいい刺激になったし、将来この経験が絶対どこかで役に立つと思いました。

（2 年 4 組　谷本　楓）

【全体感想①】



私は、カナダに行く前は不安でいっぱいでした。英語も得意ではないし、人見知りなので、本当に怖かったです。しかし、実際に行ってみると私の英語でもある程度通じるのだなと思いました。あまり身構えなくても良かったと感じました。

事前の下調べでは、カナダは治安がいいと書かれていたけれど、実際に行ってみると、ホームレスの人がいて、やっぱり行ってみないと分からないなと思いました。

カナダの人は皆さん親切でした。私たちが道に迷っていると、女性の方が道を教えてくれましたが、英語が分からなくて、どうしようと思っていると、その人は私たちが行きたいところまで、連れて行ってくれました。下調べで、親切な人が多いと書いていたけれど本当なのだなと思いました。

そしてカナダで一番印象に残っているのは、現地の学校での授業です。私は情報の授業と地理の授業を受けました。どちらの授業も黒板を使わず、クラスの人と教え合ったりするような授業でした。その時私は、黒板を使っている日本の授業は世界に比べて遅いのではないかと思いました。また授業中にご飯を食べ始める人や、飲み物を飲み始める人がいて、先生に怒られないのだろうかと思いましたが先生は気にしていなかったので、日常茶飯事の事なのだろうと感じました。カナダは英語が話されている国なので、やはり英語での討論がすごかったです。ついていけないなと思っていたら、日本語クラスの生徒の人や、先生が今どのようなことをしているかを優しく教えてくれたので、少し安心しました。

アンケートをカナダでとった時に、現地の人が私のつたない英語を一生懸命に聞いてくれたり、私の英語を褒めてくれたので、とてもうれしく思いました。

最後に、私がこのカナダ研修で学んだものはどんな人種の人にも親切にする事、多様性を受け入れる事、自分がわからないと思ったら質問する事です。実際このカナダ研修では、自分達で行動する事が多かったです。その度に、道に迷ったりもしましたが、道を尋ねると必ず答えてくれ、人の優しさを感じる事ができました。カナダに行って、国土の広さやカナダの人々の心の広さに感激しました。今回の研修を通して、私の視野が少し広くなったのではと思いました。本当に、素晴らしい経験になりました。

（2 年２組 小出　歩未）

【全体感想②】

この 5 日間は、たくさんのものを見て、聞いて、自分にとってすごく大きな経験になったと思います。街並みや、景色、様々な国の言語が飛び交う空間、全てが魅力的でした。
今カナダでは、道端にホームレスの方がいるという現状が当たり前のように受け入れられています。インターネットには、治安が良く、安全な街だと書かれていましたが、実際に足を運んだことで、そうでない部分も見ることが出来ました。経済・生活の差が感じられて、少し悲しい気持ちになりつつ、移民問題の課題が分かってきたような気がします。
また、私はこの研修に参加するにあたって、日系移民の歴史や文化を知っておくべきだと思い、三尾の移民資料館を訪れ、館内の方からお話を聞きました。学校でも事前学習に取り組み、移民について知るだけでなく、コミュニケーションの取り方についても学びました。ある程度の知識を持って研修に参加したことで、現地の方から聞く話の内容がよく理解できたと思います。

研修で気づいたのは、今の自分に必要なのは、聞く力はもちろんですが、話す力だということです。英語で話しているときの自分は、自信のなさが声の大きさに表れている気がします。自分から話しかけないと何も始まらないという状況に何度も陥りました。また、会話をする中で、まず単語の意味が理解できなかったり、使いたい単語が出てこなかったりということが多々あり、自分の語彙力のなさが相手との会話の幅を縮めてしまっていることを痛感しました。学校交流では、日本語が話せる生徒が多く、意思疎通も難しくありませんでしたが、その中でも自分から英語を話す機会を作ることの難しさを感じました。

そこを乗り越えれば、もっと視野が広がり、自分から話す姿勢が身に付くのと同時に、相手との会話もより楽しめるようになるのではないでしょうか。
道を尋ねたり、街頭インタビューをしたり、他にもたくさんありますが、現地の方と英語でコミュニケーションを取れたことは、帰ってきた今、それが自分の自信になっていると感じます。反省点も含めて、もっといろいろな経験がしたいと思ったし、英語を話すことの楽しさを改めて感じることが出来ました。

（2 年 3 組　塩崎　優衣）

【全体感想③】

カナダという国を知り、移民とふれ合うことが出来た研修だったので、移民についてよく考える良い機会になりました。

カナダは移民の国だということは知っていましたが、アジアの方が大勢住んでいるということに驚きました。街を歩いているとアジア系の顔立ちをしている人が多く見られました。だから、私達日本人がその場にいても何も違和感が無く、うまく馴染むことが出来ていたように思います。

今、日本では移民についての議論が行われていて、日本が移民を受け入れることのデメリットの一つとして、日本の文化が廃れていくという意見があります。しかし、様々な文化が共存することにより、さらに日本の文化を大切にしようとする気持ちが生まれるのではないか。また、彼らも日本の文化を尊重してくれるのではないかと私は思っています。これはあくまで私の考えです。移民の受け入れに対するメリット、デメリットのとらえ方、どちらを重要視するかは人によって違います。また、この問題に対する正しい答えは存在しません。

日本は閉鎖的な国であるため移民に触れる機会が少ないと思われています。しかし、私達があまり知らないだけであって、実際には多くの「外国人労働者」と呼ばれている移民がいます。もし、今後日本がより多くの移民の受け入れを許可したら、カナダと同じように彼らにとって住みやすく、優しい国であってほしいです。

この研修に参加したことによって分かったこと、考えなければいけないことがたくさんありました。違う国の人、違う文化を持った人とうまく付き合っていくことは必ずしも簡単だとは言い切れません。だからこそ私達はもっと世界を知り、幅広い視野を持つことが大切だと思います。ネット上で調べるだけではなく、実際に自分の目で見て、実際に自分で体験することの大切さも研修を通して学ぶことが出来ました。

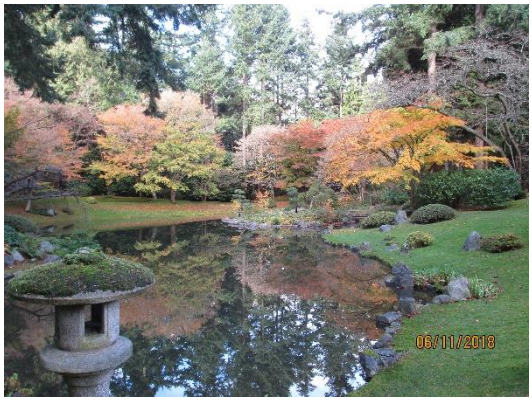
（2 年 4 組　玉置　朝花）

【全体感想④】

今回のカナダ研修は、テーマが「移民」ということで、カナダに住む移民の方たちはどのようにして言葉の壁を乗り越え、生活をしてきたのかという点に着目しながら参加させていただきました。

まず、私がカナダ研修を通して感じたことは、実際に移住した土地で生活しようと思ったら、それほど言葉の壁は問題にはならないということです。私はカナダへ行くまで、自分の英語が現地の人たちに通じなかったらどうしようかと不安に駆られていました。また、片言の英語ではコミュニケーションも上手くとることができずに会話が途切れてしまうのではないかと心配ばかりしていました。研修にあたって、和歌山県の三尾村からカナダへと移住した日本人についても調べていくうちに、一体どのようにして母国語の違う人たちと生活していったのかと疑問を抱きました。移住した日本人も、初めから英語を話すことができるわけではなかったはずだからです。

しかし、カナダで多くの人と交流していく中でそういった不安や疑問はなくなっていました。私はネイティブスピーカーのように英語を流暢に話すことができませんが、自分の知っている英単語を駆使して自分の伝えたいことを相手に伝えることができたからです。もちろん、そこには相手が私の伝えようとしていることを真剣に聞こうとする気持ちもあってのことだと思います。



また、言葉の壁はそれほど問題ではないということはカナダに移住した日本人の方もおっしゃっていました。その方は、カナダに移住してきたばかりの頃、英語も話すことができなかったそうです。それでも、なんとかして生活をし続けて今ではカナダでの生活に何も困ることはないそうです。私はそれを聞いて、たとえ異文化の中で暮らしていたとしても言葉を越えた関係を築き上げることができるのだと感じました。三尾村から移住してきた日本人たちは缶詰工場や漁業で生計をたてる中で大変な思いをしてきたことも多々あったことかと思います。そんな中でも、生活を続けていくことができたのは、異国で暮らしていくという覚悟もあったのだと思います。

そうした移民の方たちの暮らしぶりに触れることで、私がインターネットなどで調べた情報では得ることのできない貴重な情報となりました。情報化社会となった現在、たくさんの情報をインターネットなどで得ることができますが、自分で体験して得た情報は、はるかに価値のあるものになるのだと感じました。このことは、移民の方たちにも通ずることだと思います。移民の方も、たとえ日本での生活に困っていたからといって、カナダという遠い

国へ住むために日本を出ることは容易なことではなかったと思います。しかし、日本とは違う文化に触れ、違う言語を話す人たちと暮らしていくという体験は、彼らにとってかけがえのない経験となり、以前とは異なるものの見方も加わったのだと思います。私も、カナダへ移住した日本人の姿勢を見習い何事にも恐れずに挑戦し、様々な体験をして新たな自分を発見していきたいです。そして、言葉の壁を言い訳にすることなく自分の考えを相手に伝え、たくさんの人と交流していきたいです。

（2年6組　坂下　涼）

ベトナム研修

1. 目的

（1）ベトナムの経済・産業、及び日本との関係について関連機関で学ぶ。

プログラム 1　ベトナムの概要・日本との関係を学ぶ

――― 日本大使館（ハノイ）、日本総領事館（ホーチミン）

プログラム 2　国際協力を学ぶ

――― JICA ベトナム事務所

VJCC(ベトナム日本人材協力センター)

プログラム 3　ベトナム日系企業について学ぶ

――― NIC メタルプロセッシング

プログラム 4　日本への人材派遣について学ぶ ――― ミライヒューマン

（2）ベトナムの歴史を学ぶ。

プログラム 5　中国との関係を学ぶ ――― 文廟他

プログラム 6　フランスとの関係を学ぶ ――― サイゴン大教会、

中央郵便局、ドンコイ通り他

プログラム 7　アメリカとの関係・ベトナム戦争について学ぶ

――― 戦争証跡博物館、統一会堂他

（3）「総合的な学習の時間・産業」の取組を紹介するとともに、現地高校生とそれぞれの地域の産業について協働学修をする。

プログラム 8　英語を用いた協働学修に取り組む ――― チャンフー高校

（4）地域の取り組みとベトナムのつながりを学ぶ。

プログラム 9　日高町商工会のベトナム観光客誘致事業と関連づける

――― 現地学習

（5）研修期間を通してコミュニケーション力を磨き、自国文化および異文化への理解を深める。

プログラム 10　異文化の中で自らを客観視し、成長させる ―――現地研修

プログラム 11　事前事後研修を含むすべての研修の中で協働することの意義を学ぶ ――― 日本、ベトナムにおける全研修

2. 日時

2019 年（平成 31 年）1 月 14 日（月）－1 月 19 日（土）

3. 研修先

ベトナム社会主義共和国（ハノイ市、ハイフォン市、ホーチミン市、ドンナイ郡）

4. 事前研修、事後研修

事前研修①英語研修：夏期休暇中 7 回

事前研修②ベトナム概要理解、ベトナム産業調査、プレゼン準備、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ準備
日高町商工会ベトナム観光客誘致事業理解、ベトナム JICA 活動理解
：7 月～1 月

事後研修　研修総括、プレゼン準備、報告書作成：1 月～3 月

5. 研修団構成

参加生徒：2 年生 5 名　　1 年生 2 名　　引率教員：2 名

6. 主な訪問先

(1) ハノイ市内商業施設　Commercial facilities in Hanoi
(2) JICA ベトナム事務所　The Japan International Cooperation Agency Vietnam Office
(3) VJCC 事務所　Vietnam - Japan Institute for Human Resources Development (VJCC) Office
(4) 日本大使館　Viet Nam Embassy of Japan
(5) チャンフー高校　Tran Phu High School
(6) NIC メタルプロセッシング（日系金属加工工場）　NIC Metal Processing Co.,Ltd.
(7) ホーチミン日本総領事館　Consulate General of Japan in Ho Chi Minh City
(8) ミライヒューマン(日本派遣人材職業訓練センター)　Mirai Human
(9) 戦争証跡博物館 The War Remnants Museum
(10) ホーチミン市内商業施設 Commercial facilities in

7. 研修日程

日次	月日(曜)	地　名	現地時刻	交通機関	予定(宿泊地)
1	1/14 (月)	関西空港　集合 関西空港　発 ノイバイ空港着 ハノイ市内視察① 夕食、ホテル着 ミーティング・点呼	08:30 10:30 13:35 14:30 20:00 20:30	 VN331 専用車	＊集合場所 関西空港国際線VN出発カウンター （ホーチミン廟/文廟/ドンスアン市場等旧市内を中心に視察） (ハノイ市内泊)
2	1/15 (火)	集合出発 JICA事務所着	08:20 08:50	専用車	・JICA事務所(9:00-10:00)

		VJCC事務所着 昼食 日本大使館着 ハノイ市内視察② 夕食、点呼・ミーティング	10:55 13:10 14:35 16:30 20:00		・VJCC事務所(11:00-12:00) ・日本大使館(15:00～16:00) ・(チャンティエンプラザ等市内繁華街の商業施設を視察) (ハノイ市内泊)
3	1/16 (水)	集合出発 チャンフー高校到着 チャンフー高校出発 イオンモール到着 夕食、ホテル着 点呼・ミーティング	08:00 10:10 16:00 18:00 20:00 20:30	専用車	・チャンフー高校(10:00~16:00) ・イオンモール（ハノイ郊外の日系商業施設視察） (ハノイ市内泊)
4	1/17 (木)	集合出発 ノイバイ空港発 タンソンニャット空港着 昼食 NICﾒﾀﾙﾌﾟﾛｾｯｼﾝｸﾞ着 夕食、ホテル着 点呼・ミーティング	07:45 10:50 12:10 13:30 15:00 20:00 20:30	専用車 VN227 専用車	・日系企業視察 (15:00～17:00) (ホーチミン市内泊)
5	1/18 (金)	集合出発 日本国総領事館着 ミライヒューマン着 昼食 ホーチミン市内視察 夕食 タンソンニャット空港着	08:30 08:40 10:20 13:30 14:30 19:30 20:40	専用車	・日本国総領事館 (9:00～10:00) ・ミライヒューマン (10:20～13:00) ・(統一教会/戦争証跡博物館/ペンダン市場/高島屋/ハッピープラザ/サイゴンスカイデッキ、ドンコイ通り等) (機中泊)
6	1/19 (土)	タンソンニャット空港発 関西空港着 解散	00:15 07:20 08:00	VN320	解散場所 関西空港国際線到着ロビー

【全般的な学び】

～事前研修～日高高校卒業生で元青年海外協力隊員として昨年までベトナムで医療活動に従事されて

今回の研修で強く印象に残っているのは大きく分けて、２つである。

１つ目は、日本とベトナムの産業的なつながりである。最近ベトナムから日本に来て、働いている人が多いことはテレビなどの報道を通して知っていた。また、僕の兄の友達がバイトをしているところでは、店長以外全員がベトナム人であるということも聞いていて日本にやって来ているベトナム人は本当に多いと感じていた。しかし、どのような理由から　これほど多くのベトナム人が日本に来ているのか疑問だった。このことに関して、ミライヒューマンで「3年間日本で働いた給料は、15 年間ベトナムで働いた給料と同じだ」と言うことを聞き、たいへん驚いた。さらにミライヒューマンでいろいろ話を伺い、ベトナム人が日本で働くことは、彼らにとってよい意味でも悪い意味でも人生の大きな分かれ道になっているということがわかり、悲しくなった。日本に来て、充実した生活を送り、ベトナムに帰って成功をおさめている人がいる反面、頑張って、日本に働きにきて、親孝行しようとしている人達の気持ちを踏みにじり、大量のお金を巻き上げているところもあると知り、そのような人間の汚さは、どこに行っても同じなのかなあと思った。日本とベトナムがよりよい関係を保つためにも、そのようなことをなくしていかなければならないと思った。

２つ目は、自分たちの英語能力の低さである。今まで海外の人達と交流していた時は、普通に会話をすることができており、以外と話すことができるのでは・・・？と思っていた。しかし、いざチャンフー高校の高校生たちと話をしてみると、彼らは英語を母国語のように話しており、こちらが何を言っているのか分かりにくいことが多々あった。特に酷かったのが、双方の産業をテーマにしたディスカッションの時である。この時は相手が話をしている２～３割程度しかわからなかった。これらの経験を通して、僕はリスニング力とボキャブラリーをいっそう強化しなくてはならないと感じた。ミライヒューマンンなどでベトナム人が日本語で話をしているのを聞く

～事前研修～ベトナムからの観光客誘致事業に取り組んでいる日高町商工会の山田会長と荊木事務局長のレクチャ

とき、文法が少しおかしくても普通に理解することができた。このことを逆の立場で考えれば、相手の言うことを理解するためにはリスニング力、ボキャブラリーが必要であり、自分の意見を伝えるのにボキャブラリー力が必要だと言うことだ。文法の誤りをあまり恐れずにこれらの力を強化してチャレンジしていくことが大切であると思った。

（2 年 5 組　倉　彩斗）

【JICA】

JICA ベトナム事務所は、最初の国際機関の訪問で、私が挨拶担当で緊張しましたが大きな失敗もなく無事終えることができた。JICA では、青年海外協力隊ばかりのイメージを持っていたが、実際は「シニア海外協力隊」、「草の根技術協力隊」など JICA が他にも行っていることも詳しく知ることができた。小林龍太郎 JICA ベトナム事務所次長より、お話いただいた中で特に面白いと思ったのは、シニア協力隊の工場の生産性向上、効率化に向けての取り組みだった。この活動はまさに社会主義から資本主義への転換を象徴するような活動だと思い、たいへん興味を持った。経済発展を続けるベトナムだが、経済規模はカンボジアやラオスよりは上位にあるが、フィリピンと同程度で ODA はまだまだ必要だということであった。また、ベトナムで経済進出をしている国は中国や日本ではなく、サムソン関連で韓国がトップだということや開発にともなう多額の借金も問題になっているということであった。

（2 年 4 組　小畑　晧希）

【VJCC（ベトナム日本人材協力センター】

日本企業との橋渡しをしたり、ベトナム人の人材育成を行ったりしている VJCC では、ベトナムでは社会主義をドイモイ政策で、資本主義的にという動きがあり、そこで日本とベトナムの政府間で設立されたといことであった。ここでは、仕事に対しての日本人の考

え方や精神を取り入れた人材育成を重点的に行っている。経済成長が著しいベトナムの課題は、海外からの多額の借金、海外企業がたくさんの工場を持っているが、技術力はまだ高くなく、細かい部品は先進国からの輸入品で、主に製品を組み立てるといった単純なことしかできていないということだった。今後先進国に追いつくには約 40 年、この発展には環境問題が妨げになるかもしれないので、しっかりとした考えが大切であるとの話も伺った。経済発展には様々な課題もあるということがわかった。

（2 年 4 組　小畑　晧希）

【日本大使館】

杉本大輔書記官より資料をいただいて、ベトナムの人口や産業構造などの基本情報をベースに日本とベトナムの技能実習や留学の人的交流や国家交流、産業交流など幅広いお話を伺った。ベトナムも昨年僕が行ったインドネシアと同じ交通渋滞の問題があり、それを解決するためにインドネシアと同じく鉄道を建設しているのだが、賄賂などもあり、完成が遅れていることも知った。

昔は、日本が完全にベトナムを支援するだけだったが、今は日本とベトナムが WIN-WIN の関係になってきているため、将来は日本がベトナムに支えられることになるかもしれないと思った。

（2 年 5 組　倉　彩斗）

【ホーチミン日本総領事館】

ホーチミン日本総領事館を訪問させていただき、2014 年に日高高校 100 周年記念事業で開催した「アジア高校生フォーラム」の時にご来賓としてお越しいただいた河上淳一総領事様にお話をしていただきました。お話を伺うというより話し合いというイメージで進めていただいたので、個人的には意見も出しやすかったし、楽しい時間でした。最初に「ハノイとホーチミン違いは何？」と聞かれたとき、どうしようと思ったけれど、スッーと言葉が出てきて、自分の中で成長を感じた。

ホーチミンは首都じゃないのにこのように発展しているのか？なぜハノイには工場が少ないとのか？今まで学習を続けてきたからこその疑問が出てきて、河上様はそれにお答えいただき、とても勉強になる時間だった。自分たちのここ数日の深まりが結果に出てきたように感じられてうれしかった。

（2 年 1 組　石井　愛美）

【チャンフー高校】

チャンフー高校では、事前に学習していた産業についてのディスカッションを中心に協働学習を行った。日本では農家が減少傾向にある理由として、若者に農家になりたい人が少ないことをあげ、ベトナムの状況を聞いた。農業が主力産業であるベトナムでも同様で、収入が不安定で、労働がきついことなどから、なりたい人は少ないとのことだった。日本、ベトナム合わせて 17 人の生徒で討論したが実際に農家になりたい人は誰もいなかった。農業を魅力的にするためには、農作物に付加価値をつけ、流通を効率化

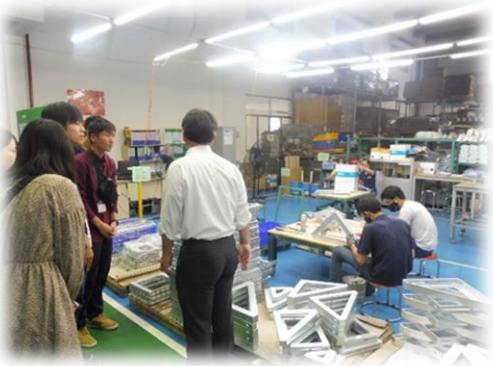
することなど具体的なプランも協働でまとめた。チャンフー高校には、ロシア語学科、中国語学科、ドイツ語学科、日本語学科などのコースもあり、日本語学科の授業にも参加させていただいた。日本語学科の生徒達は日本語がうまく、日本も愛されていると思いうれしかった。彼らはベトナム語、英語の他にももう一カ国語をしゃべれる。想像以上に素晴らしい学校だった。

僕は日常生活のことなら英語で会話ができ、自己紹介などの話をするのが楽しかったが、農業や経済の討論になると口数が減った。どんな話題でも積極的に発言できるようになりたいと感じた。単語や文法もまだまだだが、まずは失敗を恐れず、積極的にチャレンジする力を養おうと思った。

（2 年 6 組　山口　瑛己）

【NIC メタルプロセッシング】

日系企業の NIC メタルプロセッシングを訪問させていただき、西田和明社長様、中山博工場長様よりお話を伺い、実際工場も見学させていただいた。多国籍の企業の考えや事実を伺い、そのメリット、デメリットについても詳しく理解することができた。メリットは大きな要因は人件費、デメリットは言葉の壁であると言うことも理解できた。私は海外進出する会社の上司は英語がしゃべれなくてはならないという固定観念を持っていましたが、実際に翻訳家を雇えば英語をしゃべれなくても大丈夫であるという新たな気づきもあった。また、日本のように一律の賃金ではなく、頑張った分だけ賃金アップにつながる制度も興味が持てた。また、日本の工場はエアコンが設置されて、しっかりと温度設定ができ、快適な環境であるのに対して、ベトナムの方は少ない扇風機を回すだけで問題は起こらないのか気になった。



（2 年 1 組　石井　愛美）

【ミライヒューマン】

ミライヒューマンでのベトナム人の方が私にとってはすごく印象的でした。椅子がない教室で授業中ずっと立って勉強していたり、寮に帰っても 2 時間は勉強しているなど、ベトナム人のまじめさが理解できました。教室に椅子が置かれていないのは日本で働くときには、立ったままの仕事が多くそれに慣れるためでもあるとのことでした。日本語の授業などもすごく工夫されていて、日本が負けている感じがしました。ミライヒューマンの人とすれ違うたびに大きな声で「こんにちは」と声をかけてきてくれてとても気持ちがよかったです。皆さんはすごく明るくてずっと笑顔で難しいと言っている日本語も一生懸命話そうとしていて私はすごく感動しました。また、日本で働くことのよいところだけではなく、悪い面もたくさん教えてもらい、日本もまだまだ平和で安全だとは言い切ることができないなあと思いました。

（2 年 1 組　谷口　咲予）

【戦争証跡博物館】

戦争証跡博物館にはベトナム戦争時の写真や実際に使用した実物が展示されていました。顔がえぐられていたり、枯れ葉剤の影響で障害を持つに至った子供達の写真を見て、とても強い衝撃を受けました。改めて戦争は絶対いけないと思いました。

（1 年 5 組　鳴川　奈那）

【ベトナム街中視察】

日本では考えられないくらいのベトナムのバイクの多さにとても驚きました。私がたいへんだったと思ったことは、道を渡ることです。バイクや車がたくさん通っている上に、横断歩道があまりないので渡るのは命がけだと思いました。日本と違ってあまりルールがないような気がしたので気をつけなければいけないと感じました。また、市内視察ではフランスの植民地時代の名残が残る街並みを見て、歴史を感じ取ることができました。

（1 年 5 組　平山　萌）

姉妹校交流

姉妹校交流・西安中学校

1. 交流の経緯

・2004 年 8 月から 2005 年 7 月にかけて、日高高校生が西安中学に長期留学をする。

・2005 年、西安中学から姉妹校提携の提案を受ける。

・2006 年 1 月 26 日、日高高校にて姉妹校提携の調印式を挙行する。この年、日高高校が西安中学を訪問する。

以降、年に一度の相互訪問を続けている。2018 年の今年は、姉妹校交流が始まって 12 年目、西安からは 6 回目の訪問の年となる。

2. 交流日程

2018 年（平成 30 年）７月４日（水）－７月８日（日）　（五日間）

3. 日程概要

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関/交流クラス	内容(宿泊地)
1	７月４日(水)	関空着 関空出発 日高高校着	15:30 16:30 18:00	MU277 バス	ホストファミリーと合流（ホスト家庭）
2	７月５日(木)	日高高校	朝 １限 ２限 ３限 ６限 ７限 16:30-17:00	全校生徒 ― 中１ 中３ ２年５６組 ２年４組 国際交流委員ほか	歓迎集会（体育館） 校内案内 英語 英語 C 英II 古典 生徒交流会（体育館）（ホスト家庭）
3	７月６日(金)	日高高校 道成寺 日高高校	１限 ２限 ４限 午後 放課後	中２B １年６組 中２A 道成寺 部活動交流	英語 C 英I 英語 絵解き説法

					（ホスト家庭）
4	７月７日 (土)	各家庭	終日		家庭での交流 （ホスト家庭）
5	７月８日 (日)	日高高校発 ホテル着	14:00 15:20	バス	ホテルまで送迎 お別れ

4. 訪問団、ホストファミリー構成

		姓名（氏名）		生年月日	性別	ホスト ファミリー
		中文	英文			
1	教师	赵 涛	ZHAO/TAO	1959.8.14	男	―
2	教师	严 培 强	YAN/PEIQIANG	1974.3.23	男	―
3	教师	杜 微	DU/WEI	1982.3.15	女	―
4	教师	任 楠	REN/NAN	1980.11.11	女	―
5	学生	高 若 辰	GAO/ RUOCHEN	2002.10.28	女	畑崎　咲良 （2-4）
6	学生	黄 萌	HUANG/ MENG	2002.6.11	女	玉置　朝花 （2-4）
7	学生	张 曙 烨	ZHANG/ SHUYE	2002.5.3	女	玉置　朝花
8	学生	张 润 祺	ZHANG/ RUNQI	2001.11.8	女	中前　桃香 （3-3）
9	学生	李 思 瑶	LI/ SIYAO	2001.12.31	女	中村　玲那 （2-6）
10	学生	王 嘉 欣	WANG/ JIAXIN	2002.2.5	女	源地　菜月 （1-6）
11	学生	陈 哲	CHEN/ ZHE	2002.2.10	女	濵　花音 （1-6）
12	学生	欧 珂 童	OU/ KETONG	2002.3.21	女	阪本　淑恵 （1-6）
13	学生	郝 崇 浩	HAO/ CHONGHAO	2002.2.9	男	竿本　康晴 （1-A）
14	学生	张 珂 鸣	ZHANG/ KEMING	2002.2.18	男	出口　美樹 （教員）

【ホームステイを受け入れて】

7 月 5 日から 3 日間、中国、西安の学生のホームステイ受け入れをしました。私の姉も一度受け入れをしていて、その時に私は初めて外国人と関わりました。その子は日本語を話すことが出来たので、当時中学 2 年生だった私でも簡単に意思疎通、コミュニケーションをとることが出来ました。この時に外国人とコミュニケーションをとることの楽しさを知り、国際交流への関心が高まりました。また、その翌年には日高高校の姉妹校である西安の高校にホームステイでの訪問研修に参加し、英語で外国人とコミュニケーションをとることの楽しさを知りました。その時、私のホストシスターになってくれたのは私より 1 歳年上の中国人の女の子、シンです。このシンが「次は私が日本に行きます。あなたに私のホストシスターになって欲しいです。」と私にメッセージをくれました。これを見た時、またシンに会えるのがとても嬉しくて、喜んでシンのホストシスターになることを決めました。

シンが日本に来た当日、私達は幕末というラーメン屋に行きました。私はここのラーメンがとても大好きで、中国でもラーメンと似た食べ物があったのでシンに是非食べてもらいたかったからです。シンはとても気に入ったらしく、替え玉までしてくれました。食に関しては、このホームステイ中、お寿司やお好み焼きなど色々な日本食を出しましたが、どれも積極的に食べてくれました。

西安は中国の内陸部にあります。だからシンは海を見たことがないと思ったので煙樹ヶ浜に夕日が沈むのを見せに連れていきました。しかし、家族と旅行に行く時に海を見たらしいです。でも夕日が海に沈むのはあまり見た事がないと言っていたので良かったです。

このホームステイの期間中、唯一の休日は私とシン以外にも他にホームステイに来ている中国人学生とそのホストシスターの子達とアドベンチャーワールドに行きました。私には中国のパンダと日本のパンダの違いを知りたかったのですが、そこまで違いはないらしいです。ジェットコースターはシンも他のどの子も喜んでいました。

最終日。本当は前日が七夕祭りだったので浴衣を着て連れて行ってあげたかったのですが雨が降っていて諦め、最後の

朝に、一緒に浴衣を着ました。そしてロマンシティーに行ってプリクラを撮りました。

今回、三日間ととても短い期間だったのでもっとしたかったことが全然出来なかったのが残念でした。それでも、本当に有意義な時間を過ごせたと思います。今年は日高高校生が西安に行く年です。2 度目になりますが、また参加したいと思います。そこで友達になった子がまた日本に来る時にはホームステイ受け入れをしたいです。

（１年６組　源地　菜月）

【ホームステイを受け入れて】

私は、西安中学の生徒を受け入れることに初めは迷いました。家族に協力してもらわないといけないし、自分の英語が伝わるのか、相手の言いたいことが理解出来るかどうか不安だったからです。しかし、私はホストファミリーになることを決めました。一つ目の理由は、従姉がデンマークの生徒を受け入れたことがあったからです。その子と交流をしたときにとても楽しい時間を過ごせたので、私も受け入れたいと思うようになっていました。もう一つの理由として、国際交流に興味があったからです。その国の伝統や文化、生活様式、学校生活などが知れると、その国に対しての知識が得られるし、英語力を高めることが出来るからです。

受け入れが決まってからも、食事は合うのか、お風呂の入り方、どこに連れて行ったら良いのかなどたくさんの事を家族と一緒に考えました。初めは一人の生徒を受け入れるということだったのですが、受け入れ先が無かったので二人の生徒を受け入れました。結果、二人の方が中国の子にとって緊張せず、リラックスして過ごせたように思います。大変だった、困ったということは一切無く、二人とも優しくて本当に良い子たちでした。彼女たちは別れる際、私にお手紙をくれました。その手紙を読んで、私は心から嬉しい気持ちになりました。またそれと同時に、もうお別れの日なのかと少し悲しい気持ちにもなりました。

今回、生徒の受け入れをして本当に良かったと思います。私の中国に対する見方が少し変わったし、彼女たちと良い日々を過ごせました。学校での慌ただしい交流とは違って、ゆっくりじっくり会話をする事が出来て、お互いの考えや、思いをきちんと伝えられました。私にとっても、家族にとっても良い経験をする事が出来ました。

（２年４組　玉置　朝花）

【ホームステイを受け入れて】

私は、今回西安中学校のホームステイを受け入れて、本当に良かったと思っています。

まず、家で国際交流が出来たということです。ホームステイを受け入れるのは今回が初めてで、どんな料理を出せばいいのか、私たちの暮らし方がその子に合わなかったらどうしようなど、いろいろ不安なことはありましたが、ホームステイを受け入れてすぐ、そんな不安はすべてなくなりました。来てくれた子は、日本にとても興味を持ってくれていて、少し古いので不安だった家も、「漫画に出てきた家と一緒だ！」と喜んでくれて、食事もなんでも「おいしい」と食べてくれました。一番気に入ってくれた料理はなんと「茶粥」です！
「中国にもお粥はあるが私はこっちのほうが好き」と言ってくれていました。

叔父が杏仁豆腐を買ってきてくれたので「中国のものと味は同じ？」と尋ねると「杏仁豆腐は初めて食べた。多分他の地域の料理。」と言われ驚きました。日本だと他の地域の郷土料理も大体知っているので、それだけ中国は大きいのだなと改めて思いました。

またホームステイを受け入れたことで、中国に対する考え方が変わりました。テレビの影響などで中国の人はマナーが悪いという印象をきっと皆少しは持っていると思います。
ですがそんなことはありません。来てくれた子は礼儀正しくて、例えば下着は自分で洗ったり、と私たちにとても気を使ってくれていました。たまに私たちからするとびっくりするようなこともあるかもしれませんが、それも文化の違いを発見できたと思うと楽しいです。
ただ、少し時間にはゆっくりなところがあるので、予定よりも少し早めの時間を伝えるようにすることをお勧めします。

ホームステイを受け入れることは家で国際交流ができる非常にいい機会になると同時に自分が外国でホームステイをさせていただく時の経験にもなるので、国際交流に興味がある方、海外研修に参加したいと考えている方はぜひ、受け入れてみてください！

（２年６組　中村　玲那）

【ホームステイを受け入れて】

人手が足りないということで、先生に頼まれたといった形で受け入れたことから始まりでした。実際、私は英語が得意という訳ではなく、楽しみもあったけれど、緊張と不安のほうが大きかったです。緊張しすぎたせいか、初日は全然会話が弾まず、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。でも、彼女はいろんな話をしてくれて、お互いの事をたくさん話して、こんなに英語が苦手な私でも聞き取れる英語で話してくれました。二日目には打ち解けることができて本当によかったです。毎日一緒に登下校したり、一緒にご飯を食べたりと本当に

充実した生活を送ることができました。週末には一緒に買い物をし、観光したりなどとたくさんの思い出ができました。日が過ぎるのも早く、別れの時は寂しかったことを覚えています。私は受入れをして本当に良かったと思っています。学んだこともたくさんありました。本当に楽しかったです。今では毎日連絡を取り合うほどのいい友達です。

（２年４組　畑崎　咲良）

【ホームステイを受け入れて】

私が受け入れた子は、kpop 好きで、私も kpop を聴いたりしていたので、お互いの共通の話題があってよかったです。今まで、兄がホームステイの受け入れをしていた時は、ウェルカムパーティーがあったりしたけれど、今回はなかったので正直初めに仲良くなるきっかけが難しかったです。

1 日目の夜は、一緒にケーキを食べました。日本人は、ご飯を食べる時ほとんどの人が、冷たいお茶を飲むと思いますが、その子は、冷たいお茶は飲まなくて、温かいお茶が良いみたいでした。ご飯を食べて、中国からのお土産をたくさんもらいました。中国の歴史を感じさせるもので、それについて、一つ一つ丁寧に、英語で説明してくれました。自分の国の文化や、歴史についての知識を持って、それを英語で違う国の人に説明することができるのは凄いことだな、と感心させられました。部屋で二人で、西安の町のこと、その子の家族の事、日本の事などを話しました。その子は今までにも、海外に行った経験がたくさんあって、アメリカに家族で旅行に行ったときの写真を見せてもらいました。同じくらいの年なのに、海外経験が豊富で、羨ましいなと思いました。また、kpop 好きもあって、韓国語も２、３年勉強して、マスターしていて、驚かされることばかりでした。

２日目は、ラーメンを食べに行きました。他の友達から、ラーメンを食べておいしかったと聞き、ラーメンが食べたかったらしく、喜んでくれました。帰りに、薬局に寄りました。資生堂のリップが欲しかったらしく、買えてよかったです。日本のブランドが、他の国でも有名で、人気があるのはすごいな、と思いました。この日は、お家で、私の名前の漢字の読み方を、中国語で教えてくれました。発音が難しく、あまり正確に聞き取れませんでしたが、嬉しかったです。

今回の受け入れでは、土曜日も挟んでいたので、他の友達たちと一緒に、アドベンチャーワールドに行きました。学校の疲れもあってか、珍しく、いつもより遅く起きてきました。動物が好きらしくて、とても喜んでくれました。私も、久しぶりの動物園で、ちょっと楽しかったです。帰りに、みんなで、とれとれ市場に寄って、お土産を買いました。私はまだ、お土産を渡せていなかったので、この日に渡しました。一週間もなかったけれど、すごく長く感じました。初めての、ホームステイ受け入れの経験で、戸惑うことも多くて、上手くいかないことばかりでした。言葉が違うのは、やはり難しいな、と改めて痛感させられました。

（１年６組　濵　花音）

【ホームステイを受け入れて】

私は今回初めて西安中学校交換留学生のホームステイ受け入れをしました。昨年度私が西安へ交換留学に行き、ホームステイをさせていただいたからです。私が受け入れをするのはこれが初めてですが、私の姉が何度か受け入れをしており慣れていたので、そこまで心配はしていませんでした。しかし私はいかんせん英語がとても苦手で、うまくコミュニケーションが出来なければ、留学生にただでさえ慣れない環境で更に不自由を強いてしまうのではないかという不安はありました。

今回ホームステイに来た留学生は、私がホームステイでお世話になった子ではなく、欧珂童さんという子で初対面でした。私はとても緊張していて、今思えばまともなあいさつも出来ていなかったように思います。しかし彼女はとても優しく、私の拙い英語でも親身に聞いてくれました。それにより、私が始めとても不安だった英語でのコミュニケーションも、落ち着いて出来たと思います。

彼女は写真が大好きだそうで、学校の行事などの写真を撮り、記録する役目があるそうです。今回の交換留学にもとても高価で高性能なカメラを持ってきていました。どんなときにも肌身離さず持っていて、体育館の壇上に上がっていたときも肩にかけていました。今までに撮った写真は彼女のパソコンの中に入っていて、たくさんの写真を見せてくれました。体育祭のような行事の写真や、学校の政府の要人がいらっしゃったときの写真、模擬国連と呼ばれる、国連の会議を模した場で問題のテーマについて話し合うという行事の写真など様々あり、それぞれどのようなことがあったか、写っている人物の紹介などをしてくれました。彼女のお兄さんが写っている写真を見せてくれましたが、彼女が酷評していてとても面白かったです。過去に日本食があまり口に合わないという留学生もいたので今回も少し心配でしたが、思いの他気に入ってくれようでおいしそうに食べてくれました。

私は今回のホームステイ受け入れで自分の英語を使う能力の低さを思い知りました。西安中と日高では英語の能力に大きな差があり、私が西安に交換留学に行ったときは英語を母国語のように流暢に使う生徒ばかりで驚いたことをよく覚えています。何か話そうとしても、文章を頭で組み立てているともう遅く、結局何も話せなかったりします。話していても自分の知らない単語はどのように表現すればいいのかわからなくなり、うまく話せなくなることも多々ありました。しかし、言葉のみがコミュニケーションではなく、例えば表情であったり、ジェスチャーであったりと、言葉に加えて自分の気持ちや伝えたいことを表現することができるということも感じました。そこまできれいな文章にしようと思わなくても、理解してくれると思います。もし英語を話すことが苦手でホームステイ受け入れを悩んでいるのであれば、コミュニケーションが言葉だけではないので、ぜひ受け入れをしてみてください。

日本と中国の生活の違いや、考え方の違いなど、様々な新たな発見があると思います。先

入観からの情報だけでなく、実際に一緒に過ごすと理解できることがきっとあると思います。それが自分のとても身近な学校のプログラムとして体験できでとても貴重な機会だったなと思いました。

（１年６組　阪本　淑恵）

デンマーク研修（姉妹校訪問）

1. 交流の経緯

フレデリクスハウン高校があるフレデリクスハウン市と、御坊・日高地方とのかかわりは60年前に遡ります。1957年2月10日、日ノ岬沖を航行していたデンマークのエレン・マースク号が、炎上する日本漁船に遭遇しました。海に投げ出された日本人船員を目にしたヨハネス・クヌッセン機関長は、わが身を顧みず荒れ狂う海に飛び込み、命を落としたのです。地元の人々は彼の勇気ある行為に胸を打たれ、事故現場を見おろす日ノ岬パーク内に顕彰碑と胸像を建立し、日高町田杭地区には、大破した救命艇の保管庫を建て、その遺徳をしのんでいます。

このクヌッセン機関長の故郷フレデリクスハウン市は、ユトランド半島北部に位置する人口およそ24,000人の港町です。事故から50周年にあたる2007年8月、市のバングスボー博物館にクヌッセン機関長記念コーナーが設置され、その除幕式に和歌山県、美浜町、日高町から関係者が出席しました。その折に、「今後の交流については高校生同士の手で」というお話をいただき、日高高校とフレデリクスハウン高校との交流が始まりました。

フレデリクスハウン高校は生徒約800名、教員約80名で、特に生物学、クリーンエネルギー学、海洋学に力を入れている学校です。またヨーロッパ諸国に複数の提携校を持ち、国際交流にも意欲的です。

2010年11月に日高高校から初めての訪問団を派遣し、2011年にはフレデレリクスハウン高校からの訪問団を受け入れました。その折、姉妹校提携を結び今日まで交流が継続しており、お互いが隔年に訪問団を派遣しながら友好を築き、今年度は５回目の派遣になりました。派遣時には、共働学習の取り組みとして、研究テーマを設定し、お互いの取り組みや研究成果を発表しました。このような取り組みは国際感覚の育成と科学的な視野の広がりに大きく役立っていることと思います。

2. 目的

(1) クヌッセン機関長の縁のある場所を訪問することにより、友好の絆を確認する。
(2) ホームステイ体験や市内見学を通して、異文化理解を深める。
(3) 姉妹校との共同授業において、討論・まとめ・発表をグループで協力して行うことにより、英語でのコミュニケーション能力の育成を目指す。
(4) 「持続可能な発展」の先進国であるデンマークから、その先進的な取組と価値観を学ぶ。
(5) 課題を解決するために、自主的に計画を立て、様々な活動を通して、参画力、コミュニケーション力、企画力を伸ばす。

3. 日時

2018 年（平成 30 年）9 月 30 日（日）～10 月 6 日（土）
（現地 5 泊、機中 1 泊）

4. 研修先

デンマーク王国・フレデリクスハウン市

5. 事前研修

夏期休業中より開始。英語研修を含め 20 回程度実施。加えて出発直前の週には、昼休みに各自昼食を持って集まり、外国人教員や英語科教員とともに英語でのコミュニケーションを練習する機会も設けた。

共働学習のテーマ設定を上記（4）に定め、生徒たちは、デンマークが世界の幸福度調査で上位にたびたびランクインする理由として、「福祉」「教育」の制度があるのではないかと考え、グループで調査研究を行った。それをもとに、現地では、日本との類似点と相違点、考察などを発表し、意見交換を行うことができた。

6. 研修団

参加生徒：1 年生 4 名　2 年生 6 名、計 10 名
引率教員：2 名

7. 研修日程

日次	月日（曜）	地名	現地時間	交通機関	内容（宿泊地）
0	9 月 30 日（日）	関西空港発 アムステルダム着 アムステルダム発 オールボー着 フレデリクスハウン市着	10:25 15:00 16:30 17:50	KL868 KL1335 自家用車	ホストファミリーと合流 (フレデリクスハウン市)
1	10 月 1 日（月）～4 日（木）	フレデリクスハウン市	フレデリクスハウン高校にて交流と協働学習 詳細は下記のとおり （フレデリクスハウン市）		
5	10 月 5 日（土）	フレデリクスハウン市 オールボー着 オールボー発 アムステルダム着 アムステルダム発	早朝 10:10 11:35 14:40	 KL1330 KL867	（機中泊）
6	10 月 6 日（日）	関西空港	08:45		到着後解散

【フレデリクスハウン高校　日程】

Time:	Monday (1/10)	Tuesday (2/10)	Wednesday (3/10)	Thursday (4/10)	Friday 5/10)
8.15-9.00	Welcome 232	Excursion to "Råbjerg Mile" and "Grenen".	2nd working session 232	4th working session 232	Departure by bus at 7:00 at Frederikshavn Gymnasium.
9.00-9.45	(start at 8.30)				
9.55-10.40	2.k Chemistry (OP)/ 2.s Sports (MO)	Departure from Frederikshavn Gymnasium 8.30.			Arrival at Aalborg Lufthavn at 8:00 pm
10.45-11.30	3.c English (LF)/ 2.s Sports (MO)		Visit the Major (Townhall) 11.00-12.00	2.a Social science (Br) 116	
11.30-12.00	Lunch	Expected return at Frederikshavn Gymnasium 15.00.	Lunch	Lunch	
12.00-12.45	1st working session 232		3rd working session 232	5th working session 232	
12.50-13.35					
13.45-14.30	Visiting Johannes Knudsens House and grave		1.g Art (SW) 152	3.u Biology (Ak) 232	
14.35-15.20			"Hygge" 232		

【協働学習　各授業内容】

Welcome (Monday: 8.30-9.45. Room 232)

- Official welcome
- Guided tour on the school and “good to know” about the school and Frederikshavn
- Introduction to the learning outcome of the exchange
- Introduction to the program of the week

1st session (Monday: 12.00-13.35. Room 232)

- The production of Kimchi, Sauerkraut, Kombucha and yogurt starts.
- Start growth experiment with yeast.

2nd session (Wednesday: 8.15-10.40. Room 232)

- Measuring pH level in Kimchi, Sauerkraut and Kombucha.
- Growth experiment with yeast continues.

3rd session (Wednesday: 12.00-13.35. Room 232)

- Presentation of the education system in Denmark and Japan (by the students).
- Discussion about what motivates the students in the two countries and which role the family of the students have, concerning the choice education.
- Experiment with “long-term raised bread”.

4th session (Thursday: 8.15-10.40. Room 232)

- Baking the long-term raised bread
- Prepare yogurt
- Closing of growth experiment with yeast
- Final measuring of pH in Kimchi, Sauerkraut and Kombucha

【事前研修】

事前研修での活動内容で今回取り上げるのは主に２つです。

1 つ目はデンマークのことと日本の現状や問題点についての理解です。インターネットや、デンマークについて記述された本を読んで少しでもデンマークという国を調べました。調べることは重要な作業で、この作業からプレゼンや、向こうの生徒との議論の題材を決定します。

例えば、デンマークには「hygee」という生活を楽しく幸福なものにするためには欠かせない言葉があります。日本ではほとんど浸透していない言葉ですが、デンマークでは皆が知っていてデンマークの幸福度が高い理由の何たるかが詰まっている言葉です。このように、日本人なのでデンマークのことを知るのは勿論のことなのですが、デンマークのことを調べるのと同じくらい日本のことも調べました。

その理由は、日本人の自国に対しての関心が薄いことにあります。日本人は日本の政治や社会問題などに興味を示す人は少なく、特に高校生ともなるとなおさらですが、デンマークや海外の人は自国のことについてよく知っており、知っていることが普通だという認識が一般的です。だから英語を話すこと以前に知識を得ることが大切でした。

2 つ目は昼食の時間のお弁当を食べながら英語で会話です。デンマークに行く前の 1 週間くらいはお弁当も皆で食べました。私たちの場合、デンマークで、向こうの生徒と「日本とデンマークとの教育の違い」や「高い税金は国民を幸せにするのか」などといった議題のプレゼンと話し合いをしたので、このお昼の時間はそのための準備でした。これらの議題について満足に話し合いができるようになるにはやはり、難しい単語を使えるようになるのは必要不可欠でした。それを少しでもできるようにするためのものが昼休みの英語で会話の時間です。

しかし、もう一つ、英語で会話する理由があります。それは私たち生徒に英語で発言することに対して耐性をつけるためです。日本人にとって英語が苦手だと感じてしまう要因は自信の無さです。文法や英単語ももちろん大切ではあるものの、何より大切なのは自信を持って発言するということです。これがなかなか難しいと感じる日本人が多いと思いますが、逆に言えば、自信を持てば何も怖くないということです。その自信を植え付けるもの英語で会話することの目的です。

この他にも夏休みの事前研修があったり、向こうで発表するためのプレゼンづくりと発表の練習などもあります。これが面倒だと思う人や、難しそうだなと感じる人も少なくないと思いますが、案外なんとかなります。なので、少しでも海外に興味がある人や、迷っているという人は是非研修に参加してほしいと思います。

（２年６組　楠　裕貴）

【１日目】

１日目は、まず学校へ行きました。朝起きたとき、日本とは違って家の中全体が暖かかったです。だから、ベッドから出るのが苦ではありませんでした。なぜ暖かいのかはわからないですが、日本の家もこんなに暖かくなってほしいなと思いました。しかし、家を出ると本当に寒かったです。

電車に乗って、とてもおしゃれな街を歩きました。その間、ずっとホストファミリーのサラが話しかけてくれました。この日の一日前、空港から出て車で家へ行ったとき、夜ご飯についていろいろ質問してくれたのですが、あまり理解できませんでした。そこから、サラは私に質問をするのではなく、ずっと話しかける、という形でコミュニケーションをとってくれました。私がもっと英語を話せたら質問し合えたのになあ、と残念でした。この時、デンマークから帰ったら英語の勉強を頑張ろうと思ったのですが、まだできていないのでこれから頑張ろうと思います。サラは、デンマークでは免許を取れば 17 歳でも車を運転できるという話や、今歩いている街はクリスマスになるとイルミネーションできれいになるという話をしてくれました。クリスマスにまたデンマークへ行きたいと思いました。

いろいろな話をしているうちに、学校に着きました。まず、学校の見学をしました。木製の階段があったり、きれいで大きい湖があったり、学校までおしゃれでした。しかも、廊下にゴミはありません。なぜおしゃれなのか、知りたいです。

化学と英語の授業は、デンマーク語なのか英語なのかはわからなかったけど、とても難しかったです。見学をした後、私たちはデンマークの生徒と一緒に授業を受けることになりました。数日間かけて発酵食品を作ることになりました。ヨーグルト、キムチ、サワーカット、サワードウ、コンブチャ。この中でわからない物が３つあると思います。サワーカットはキャベツの食べ物で、サワードウはパンの素、コンブチャは健康に良い飲み物です。私たちの班はサワードウを作りました。出来上がりが楽しみでした。その後は、クヌッセンの家とお墓へ行きました。とてもかわいい家で、とてもきれいなお墓でした。

学校が終わるのが早かったので、放課後はデンマーク人の生徒と日本人の生徒のみんなで遊びに行きました。まず、ハンバーガー屋さんへ行きました。ブラウニーにアイスが乗っている食べ物を食べました。それがデンマークで一番おいしかったです。次は、ボーリングへ行きました。ボーリングはやっぱり難しかったです。最後にみんなで、友達がホームステイしているアパートへ行ってピザを食べました。日本にはないぐらい大きかったです。食べた後は、トランプをしたり、トランポリンをしたりして遊びました。トランポリンは、アパートにある遊具です。デンマークの遊具は規模が大きかったです。

遊んだ後、電車で家へ帰りました。本当にたくさんのことを経験した、とても長い一日でした。家には猫が４匹いるのですが、時間がなかったので今日は遊べませんでした。明日は猫と遊べるといいな、と思いながら寝ました。　　（１年６組　瀬戸　百花）

【２日目】

この日は、朝早くから学校に行って、みんなでバスに乗って、砂漠に行きました。現地のおじさんが、熱心に砂漠について、細かく教えてくれました。説明をしてくれるスピードが、すごく速くてほとんど聞き取れませんでした。みんなで、砂漠の上から滑り落ちて、どろどろになりました。途中から、雨か氷みたいなのも降ってきて、冷たいし汚れるしで大変でした。とりあえず、服についた砂を、できるだけ払って、バスに戻りました。すごく汚れてしまったけれど、楽しい経験になりました。

次に、バスでデンマークの最北端の、スカーゲンに行きました。強い雨と、風で寒くて、飛ばされそうでした。霧で海があまりよく見えませんでしたが、晴れだったら、きっと、もっと綺麗だったんだろうな、と思います。近くのお土産屋さんにもより、私はポピーの人形を、お土産に買いました。

バスで学校に戻り、放課後はお家で、パンケーキを作って食べました。日本のパンケーキよりも薄くて、クレープに近い感じでおいしかったです。食べながら、日本やデンマークについて、お互いに質問し合いました。北朝鮮についてどう思うかについて聞かれて、日本だけではなく海外の人にとっても関心のあることなんだ、と改めて知りました。国際情勢について、違う国の人と意見を交り合わせることができて良かったです。

パンケーキを食べて、次に昔の戦争時代に使われていた、発射台に行きました。またまたの雨で、土の汚れがついてしまいました。野生の羊に初めて出会いうことが出来ました。かわいいと思っていたけれど、意外と目が怖くて驚きました。この日は、いろんな初体験をして、とても充実した一日でした。

（１年６組　濵　花音）

【３日目】

午前は、前日から行っていた 5 種類の発酵の実験の途中経過を観察し、においや味、ph を調べて記録した。みんなが積極的に協力しながら実験に参加していた。話し合いながら楽しんで実験に参加することができた。その後、学校の講堂でたくさんの先生や生徒の前で自己紹介をし、校歌を歌った。また、デンマークでの有名な歌手の歌も歌っていた。

そして、市長を訪れてフレデリクスハヴンの街について教えていただいた。市長と市民との距離が近く、政治に参加しやすい環境だった。高校生にも多く意見を聞いていて若い世代を中心とした街づくりをしていた。市長はフレンドリーで先生や生徒とコミュニケーションをよく取っていた。

午後は、日本の教育についてを発表をし、日本とデンマークの授業や学校制度の違いについて話し合った。成績の付け方や進学の仕方など違うところがたくさんあり盛り上がった。同じ高校生でも教育の仕方の違いで考え方や勉強に対する姿勢が異なっているとわかった。

そして最後に美術の授業を受けた。少ない生徒数で授業がされていた。先生と生徒の関係が深まる授業体制だった。授業内容は「有名な絵に隠された比率」についての授業だった。専門的な内容で少し難しかった。

放課後はホームシスターやホストブラザーとバスに乗ってオールボーへ買い物にいった。デパートの屋上に昇ってオールボーの街の景色を見たり、街を歩いたりしてデンマークの町並みを実際に感じることが出来た。レンガ造りでオレンジや黄色などの大きな建物が多かった。街では日本でも売られているお菓子や日本にもあるお店をよく目にした。デンマークで人気のお菓子は私達の口には合わなかった。物価は日本よりも高かった。夕ご飯はレストランに行ってステーキやハンバーガーを食べた。売っている食べ物や日用品のサイズが日本で売っている物より大きかった。文化や習慣の違いを感じられた。

（２年５組　三世　千尋）

【４日目】

今日はフレデリクスハウン高校に登校する最終日でした。そう思うととても悲しくなり、初めの不安だったことなんてすっかり忘れて、楽しんでいました。学校に着き始めの授業は、社会でした。お互いの国の福祉について意見を交換し合ったり、プレゼンをしました。やはり、日本とは制度の違いがたくさんありました。一番異なる点は、消費税が 25%もある分医療費は無料であったり、教育費も大学までいらないことです。そんな中、火災訓練が入り、グラウンドまで逃げました。そこでは、違うクラスの生徒さんとも会話ができ、楽しかったです。その後、昼食を食べ海に向かいました。気温 7℃程の中、オーバーオールの様なものを着て、小さいエビをとりました。大きな網を海の底につけ、思い切り引きずると 10 から 20 匹のえびが網に入ります。みんなで騒ぎながらえびをとるのは体力がいり大変でしたが、とても良い思い出です。一度家に帰り、学校で行われるフェアウェルパーティに連れて行ってもらいました。ホームステイ先のお家で用意してくれたご飯を食べました。私達の家庭では、パンの上に魚のフライやレモンピクルスやお肉、デンマークのわさび、オレンジなどたくさんのものが乗った色とりどりの伝統的な食べ物でした。とてもおいしかったのですが、中には、お肉と一緒に甘いキュウリのようなものがありました。私は苦手だったのですが、デンマークではとても人気があるようです。食事が終わると、ビンゴをしました。デンマーク式の方法で、お米とクリームを一緒に煮て、そのうえにチェリーソースがかかったものを食べます。その中に、アーモンドが入っていた人が当たりです。日本人の口には合いませんでしたが、新しい方法で驚きました。その後、サッカーのボードゲームをしたり椅子取りゲームしたり写真を撮ってもらったりして、みんなとの最後の時間を過ごしました。最後にして、一番仲が深まった気がします。そして家に帰り、ホストファミリーの方と写真を撮っていただきました。私にとって、とても大切な 1 枚です。毎日が新鮮で驚くこと、慣れないことばかりでとても疲れました。しかしその疲れを感じさせないほどの楽しいこと、笑うことがありました。この研修に参加して数えきれないほどのものを得ることができました。今後に生かしていきます。

（１年６組　中　ひより）

その他

アジア・オセアニア高校生フォーラム 2018

私は７月２４日から２７日までアジア・オセアニア高校生フォーラムに参加してきました。私が参加することを決めた理由は、校外で国際交流をしたいと考えていたからです。さらに、英語の勉強にもなるし、海外の生徒と交流ができて自分の視野を広げられるのでいい機会だなと思いました。私は「津波・防災」の分科会で、プレゼンを行いました。私たちは南海トラフが起こったときのために日高高校の避難所マニュアルを作ろうと思い、調べたり、市役所に行ってお話を伺ったりしてプレゼンに備えて４月から準備しました。災害が起こる前に準備しておくべきことなどを私たちなりに高校生の視点からまとめていきましたが、それが大変でした。高校生として、「私たち高校生が出来ること」を考えたのですが、逆に、高校生の視点からしか考えることが出来ず、まだまだ足りないことだらけであることを実感しました。

そして私が最も難しいと感じたことは英語で思いを伝えるということです。プレゼンは全て英語で行ったのですが、そのために原稿を作るときに、言い回しや文法が難しく、とても苦戦しました。自分の言いたいことを英訳することがなかなか出来なかったので、自分の知っている単語・文法で書きましたが、これで鮮明に伝わるのか、言いたいことが伝わるのか、すごく不安でした。実際に交流する際は、どうしても片言の英語になってしまって、すらすら言葉が出てこず、もどかしい思いをしました。

私がこのフォーラムを通じて一番感じたことは自分の英語力の無さです。発表は準備すればなんとか大丈夫なものの、実際に話したり、他の子の発表を聞いたり、発表に対する質問が来たときに言葉の壁の厳しさを実感しました。でもみんな私の拙い英語でも聞き取って理解してくれたおかげで会話することができました。私が周りの子を見ていてすごいと思ったことは、英語のニュアンスについて話し合いをしていたことです。私はそんなにボキャブラリーがないので、彼らの語彙力には驚きました。母国語が英語じゃない生徒がほとんどなのに、こんなにも深く専門的なことについて議論できるのは本当にすごいです。もっと表現力を磨いて、リスニング力も鍛えて、ボキャブラリーを増やす必要があります。私の英語の学習へのモチベーションが上がりました。

英語力の無さを実感したものの、楽しむことができ、自分にとってとても貴重な経験になりました。こんなにたくさんの海外の方と交流できる機会はなかなかないので積極的に話しに行きました。おかげでほとんどの生徒と話せたのではないかと思います。ラインやインスタを交換して、今でもその生徒たちと英語でやり取りするのが楽しいです。

ここで経験したことは自分の中で生きると思います。英語の大切さを感じたと共に、国際

交流の楽しさ・大切さも感じました。私は視野を広げたいと思って参加しましたが、絶対私の視野は広がりました。だから、これから、この経験を活かせるように頑張ろうと思います。すごくいい思い出になり、達成感もあるので、本当にいい経験になりました。

（２年６組　岡久　鈴乃）